

「林業事業体による森づくり」部門

間伐推進中央協議会会長賞

夢の森つやま協同組合（宮城県）

ハーベスタを核とした 間伐作業システム

「夢の森つやま協同組合」は間伐の共同受注事業を実施するため、町内林業者や素材生産者の五人（現在は六人）が集まり、平成一二年一一月に設立。組合員所有の林業機械を有効活用し、作業の効率化を図り、間伐材生産の経費削減による森づくりに努めています。

間伐は、列状間伐（三残一伐）の列を斜め下方に交差させる方法で、森林所有者の抵抗感をなくすよう工夫されたもの。ハーベスタ

を核とした間伐作業システムを取り入れ、高密度に開設した作業路を活用し、全木が作業路に架かるようにチェーンソーで伐倒、ハーベスタで造材、グラップルローダでフォワーダへ積み込み、魚骨状に設置した作業路で運搬。木寄せはハーベスタのヘッドで掴んで造材につなげることで高い労働生産性を達成しています。

これらの取組に加え、間伐材を製材工場や合板工場へ直納したり、小径木加工用に販売するなど、間伐材の材質に応じて販売することにより森林所有者への高い利益還元を実現しています。



グラップルローダによるフォワーダへの積み込み



ハーベスタのヘッドで掴んで造材



地元説明会



低コストの作業路

「森林ボランティア団体等による森づくり」部門

林野庁長官賞

特定非営利活動法人森づくり S川根・NPO（静岡県）

団地化を図り 森林施業計画を樹立

平成一八年四月、静岡県島田市川根町笹間地区の森林荒廃防止や山村の活性化を図ることを目的に地元の森林所有者などがNPO法人「特定非営利活動法人森づくりS川根・NPO」を設立。森林所有者に対する説明会を開催し、団地化を図り（二二六・二ha 所有者二〇名）、森林施業計画を樹立するとともに、その計画に基づき、間伐や作業路の開設を実施しています。また、林野庁補助事業を活用し、一〇〇年先を見据えた地域の森林の施業や路網の整備にかかわる構想を策定し、森林所有者の合意形成に取り組んでいます。さらに、壊れにくい低コストの作業路を開設するため、研修会を実施するなど地域に信頼される森づくりに努めています。

高齢化、不在村化する森林所有者に代わり、地域の森林整備を担う役割だけでなく、間伐などの森林整備を通じて森林組合や建設業などを定年退職した人たちの再雇用を提供する場としても重要な役割を果たしています。



サイドボード



キーホルダー

「暮らしに役立つ間伐材利用」部門

林野庁長官賞

家具製作所Kiiro (長崎県)

対馬ヒノキにこだわった家具づくり

二〇〇八年に長崎県対馬市で設立。「家具製作所Kiiro」では、黄色の温かくて明るいイメージの家具、木の色をいかした家具づくりを心掛け、次の世代にも受け継いでずっと使ってもらえるように、シンプルで飽きのこないオリジナルデザインの家具、小物を一つ一つ丁寧に製作しています。

肌触り、表情豊かな木目、やわらかい色、やさしい香りなどの魅力を伝えていきたいと考え、森林組合から対馬ヒノキの間伐材を購入しています。対馬ヒノキの質感をいかし、色のある木をアクセントに、シンプルなものにも遊び心をプラスして製作。塗装については、対馬ヒノキのもつ木目などの魅力をいかすため、オイルを木材に浸透させて保護するオイルフィニッシュを使用しています。

「暮らしに役立つ間伐材利用」部門

間伐材推進中央協議会会長賞

会津産木材供給連絡会 (福島県)

会津産材の安定供給を目指して

福島県では平成一四年度から地産地消の取組として、公共施設や森林土木事業において可能な限り木造化を進めています。しかし、当初は丸太の規格が揃わなく、歩留まりが悪い、組み立てに手間がかかるなどの課題がありました。

このため、森林組合、素材生産業者、製材業者が連携し、会津産材の安定供給、事業量の安定確保を目標に、平成一五年に「会津産木材供給連絡会」を設立。本連絡会では福島県から受ける公共事業に関する木材需要量などの情報を基に、森林組合などが間伐材などを確保し、それを製材業者が製材・納品するシステムを確立しました。また、製材業者などが製品の規格化などの提案を県・市町村に行なった結果、森林土木事業では、治山ダムの残置型枠、丸太法面工、丸太柵工で製品の規格化が図られました。間伐材を製材しパネル化する事で、寸法・規格の揃った製品を納入することができるようになり、施工性が高まるなど様々な効果が現れています。



小学校の内装材に間伐材を利用



パネル法面工